

国際シンポジウム実施委員会

大里 浩秋 OSATO Hiroaki

第2回国際シンポジウムの開催に向けて実施委員会が活動を始めたのは、今年1月のことだった。前もって選ばれていた6名、北原糸子、金貞我、河野通明、田上繁、的場昭弘、大里浩秋が1月25日に集まり、まず、委員長に大里を選出し、その司会の下、去年の第1回シンポを11月末に開いたことは大学のほかの諸行事と重なって不都合だったことをふまえ、時期を早めて10月28、29日とすることに決めた。

その後、2月16日、3月7日、4月12日、5月10日と会議を持ち、その間に、第2回シンポは、私たち神奈川大学COEのこれまでの研究成果を精一杯報告して、参加者の批評を仰ぐことを基調に据えろとし、テーマの検討や報告者の人選を基本的に終えることができた。

具体的には、「非文字資料から人類文化を読み解く」をテーマとし、2日間を4つのセッションに分け、まず、非文字資料をめぐる方法論についての問題提起を行い、続いて、それぞれ図像、民具、景観写真に焦点を当てて、そこから何が読み取れるのかを明らかにし、それらの報告や討論を踏まえて、最後に、非文字資料を総合・統合的に体系化する方法の共有を目指して、総括討論を行う、というものである。

実施委員会は、今後内容の詰めを行うと共に、多くの参加者を得るための宣伝活動を始めたいと考えている。来年第3回シンポを開くだけの余裕があるかどうかはわからず、そうであれば一層、第2回を成功裏に進める必要がある。研究メンバーは万全の準備をしてシンポに臨んでいただきたいし、大学内外の多くの方の暖かいご支持をいただきたいと切に願っている。

研究組織図

